

## 小学生の居場所づくり等を検討する上での視点について

テーマ	検討の視点	主な意見	参照資料
小学生の居場所づくり	<p>○ 学童クラブの登録児童数が増加し、児童館の一般利用が制約されている状況があるととも、児童館の空白地域もある中で、小学生の安全・安心な遊び場や居場所をどのように確保するか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童館に遊びに来れなくなった子どもたちは、学校で「地域子ども教室」のようなものがあればそこへ行くかもしれないが、そうでない場合は、自分たちで居場所を求めてさまようことになる。</li> <li>○ 子どもの自由意志なり生活圏の拡大ということを大切にしていきながら、児童館・学校・学童・地域子ども教室など全体で、今までの蓄積や経験をふまえつつ、子どもの居場所を再構築する必要がある。</li> <li>○ 地域子ども教室を実施するにしても、実際問題として余裕教室のない学校での実施は厳しいのではないかと。</li> <li>○ 子どもたちの安全な居場所ということでは、穏やかな監督があればきちんと遊ぶことができると考える。</li> <li>○ 児童館の出前機能のようなことも考えられるのではないかと。</li> <li>○ 既存の制約をはずすことができれば、外遊びという点で、学校は非常に恵まれている。</li> <li>○ 子どもの居場所という点では、公園が一番に考えられるが、「公園イコール危険」ということが非常に問題だ。地域と連携した公園での見守りボランティアの活用について議論の中に入れていくのも良いのではないだろうか。</li> <li>○ 公園については、子どもたちが鬼ごっこなどをして遊んでいたなら、近隣から「うるさい」という苦情が学校にきたことがあると聞いている。近隣の理解がないと、公園でも遊べないという事実はある。</li> <li>○ 子どもの成長・発達を考えると、とりわけ高学年では、多少危険はあるかもしれないが、児童遊園、公園や校庭開放などと運動しながら考えないといけない。</li> </ul>	資料編P1 P6 P23～26 P39とその 関連資料 資料25 資料26 資料27
	<p>○ 生き生きとした子どもの遊びを増やし、子ども同士の関わりを強め、また、子どもの社会性を育むようなプログラムを担い手の問題も含め、地域の中でどのように展開するか。</p> <p>○ また、教育立区という視点からは、児童館・学童クラブにどのような取り組みが求められるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの生活というのは、予定しないことが起こるから面白いのであって、むしろそういったことに意味があると考え。そうしたことが多様に起こって、そこで考えたり苦労したりするということが、子どもの育ちの中になくってはならない。</li> <li>○ 児童館を含めた子どもの居場所にとって大切なのは、のんびりでき、気持ちが安らげることだ。</li> <li>○ 土曜日学校も土曜補修になるのではないかと懸念を持っている。学童クラブでも、「学びの場」ということがクローズアップされ、家庭の安らぎを与える場であるのに、放課後の居場所がそのまま学校で、内容も学校の延長になるのではないかと不安を感じる。</li> <li>○ 学童クラブは、事業運営要綱に基づき、年間計画を立てて、年・月・週・日単位でプログラムを作成し、子どもが活動できるようにしている。児童館では、一人ひとりの子どもの自発性や可能性が拓くように支援を行っている。また、家庭に対する支援も行っている。</li> <li>○ 教育立区構想は、非常に重要な視点である。ただし、学童クラブは「教育立区」であると同時に「養育立区」でなければいけないと思う。「養育」をきちんとやっておかないと、教育が崩れてしまう。</li> <li>○ 現状の「地域子ども教室」は、日常運営に汲々としているところもあると聞いているので、それほど意図的・計画的なものとは感じていない。</li> </ul>	
	<p>○ 学校を拠点とした居場所事業と児童館・学童クラブとの関係はどうあるべきか。(どこが異なり、どこが重なる部分なのか)</p>	<p>○ 生活の場としての学童クラブと教育的立場を配慮したプログラムを意図的に行う社会教育の場としての「地域子ども教室」という対極的立場にある事業が両方存在しているということが大切だ。</p>	

テーマ	検討の視点	主な意見	参照資料
	<p>○ 登録制の導入により待機児を解消したが、今後更に需要増が見込まれる中で、どのようにこれを受け止め、子どもへのきめ細かな対応を確保していくか。</p>	<p>○ 児童館内に学童クラブがあって、登録人数が膨らむと一般の子どもが来ることができない構図になっている。児童館があれもこれもやっていることに問題がある。</p> <p>○ 学童クラブを児童館の中でできなければできないで他の設置場所を考えるなど、方針をはっきりすべき。</p> <p>○ 学童クラブは、単なる居場所というだけでなく、「ただ今」として帰る場所、第二の我が家として捉えるべきだ。</p> <p>○ 学童クラブが家庭の代替機能を有していることは歴然とした事実だ。</p> <p>○ 学童クラブには、信頼できる大人がいて、安心してそこに身をおけるような「安全基地」としての機能、子どもの社会生活にに応じてどうやって遊ぶかということと、学習という要素が必要だと考える。</p>	<p>資料編P7 資料20</p>
学童クラブのあり方	<p>○ 子どもたちの安全・安心の面などから、学童クラブによっては、学校内への移転を望む声が多い所もあることや、登録児童数の多いクラブでは、他の利用者の利用が制約されている状況をふまえ、設置場所をどのように考えるか。</p> <p>○ 子どもを迎えに行ける時間までの時間延長や年末の運営日の拡大を求める声にどう対応するか。</p>	<p>○ 単なる合理性や安全性だけから、学童クラブを学校内に移すことは間違いだ。子どもたちにとっては、学校とは全く異質の空間になっているからこそ、学童クラブが存在しうるのであって、ただ単に場所が空いているからそこに移せば良いという単純なことではない。</p> <p>○ 学校内に学童クラブをつくる場合には、もう少し施設の改善を行って、スペースをきちんとつくるべきだ。</p> <p>○ 時間延長を行うにしても、7時が8時に、8時が9時にとどんどんニーズが増えていくのではないか。</p> <p>○ 子ども視点から見て、現時点では、何時までが適正なのかを考えることが必要だ。</p> <p>○ 子どもは家庭で育てるのが基本だということを忘れてはいけないと思う。区が際限なくニーズにこたえていくことは間違いだと思う。</p> <p>○ 大半の企業の定時終業時間は5時30分だ。1時間あれば、子どもを迎えに行くことが可能なので、6時30分までの時間延長を行うことが現実的に一番折り合いがつかうのではないか。</p> <p>○ 年末保育を実施する場合、子どもの自力通所という面や保護者アンケートの結果からは、拠点実施というやり方では厳しいと考える。現時点では、サポート体制を充実させるということが現実的ではないか。</p>	<p>資料20(P4) 資料編P6</p>
協働等のあり方	<p>○ 児童館や子どもの居場所事業の担い手は全て行政でなければならないのか。ニーズに応じた特色のある運営を実現するためにも、地域の人材やNPO等をはじめとする民間団体の参画の余地はないのか。(参画するためにはどのような条件が必要なのか)</p>		<p>資料28～29</p>